

Y06b

京都産業大学神山天文台における教育普及活動の1年

中道晶香、吉川智裕、新井彰、米原厚憲、河北秀世、池田優二、磯貝瑞希、小林仁美、近藤莊平、新中善晴、原哲也、藤代尚文、三好蕃、神山天文台学生補助員一同（京都産業大学）

京都産業大学神山天文台は、2010年3月13日に開設した。本講演では、神山天文台における1年間の教育普及活動を紹介し、大学が公開業務を行うことの意義について議論する。

神山天文台では、毎週土曜日に一般公開を行い、昼間は施設見学と太陽観察、質問コーナー、夜間は天体観望会または悪天候時に Mitaka ソフトを用いた宇宙の3D映像解説を行っている。平日は、本学の授業での利用以外に広く幼・保育園、小中高校の予約も受け、地域の理科教育への貢献を目指している。また、学内の複数の部署と連携し、図書館・体育館などのキャンパス見学や学食利用も組み込んだ体験学習プログラムを提供し、修学旅行者も誘致している。年4回の天文台講座では、地域の方々と研究者との交流を目的として、スタッフの研究内容を解説する。他にも、日本学術振興会の「ひらめき・ときめきサイエンス」やJSTのSPPに採択され、実習を伴う講座を開催してきた。学内向けには、学生・教職員を対象とした天体観望会または3D上映会をほぼ毎週実施し、補助員養成講座を年5回開催している。

公開業務の際は、天体や望遠鏡の説明だけでなく、本学の創設者が宇宙物理学者であることや、観測装置の光学設計をした卒研の話や、装置と成果の紹介、スタッフの専門分野の話題も取り入れることを心がけている。これにより、大学としても公開業務を行うメリットが大きくなると私達は考える。その効果については、来館者対象アンケートの結果を報告する。